

白山ふるさと文学賞

第四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生高学年作文の部 優秀賞

# 弟はぼくの先生

旭丘小学校六年

倉山 くらやま

天文 たかふみ

ぼくは、これから医者という夢に向かって生きていこうと思います。そう思ったのは、ぼくの弟がきっかけです。

弟は、生まれた時から病気をもって生まれました。その後、発作がおきて脳に障害が残りお医者さんから「今の医学では治せない。」と言われたのです。それから自分が医者になって治してやる。とちかいました。

弟がいてくれてたくさんのことを学びました。弟以外にもたくさんの障害、病気に苦しんでいる人がいる事、その事が分かってから命を大切にしていこうと思いました。

弟がいろいろな事が分かったのは、様々な体験があったからです。家族で外へ出かけた時、弟のことを変な目で見る人がいたり、テレビを見ていたら障害を持った子が生まれたら施設に預けたりと、人を差別する人がいます。

ぼくらは、弟がいるから、障害や病気で苦しんでいる人たちの気持ちに分かります。でも、弟が生まれてこなかったり、何もなく普通の子どもで生まれてきていたりしたら、この立場を理解していなかったかも知れません。自分でも弟が普通に生まれてくれば、いっしょに遊べたのに、弟が普通に生まれてきていけば、野球をいっしょに出来たのに、みんなからも色々な悪口も言われなかったのに、などと思った時は、山ほどありました。

でも、弟がいなければ、そんな人の立場、気持ちなどを分らないままだったでしょう。だから、差別することなく命を大切に生きていこうことをしていきたいです。

もう一つ。弟は率直に言ってくれたいと思います。自まんなどではないですが、なぜかと言うと、人を笑わせることが出来ます。お笑いとか、そういう笑わせるではありません。泣いている時、弟が近寄って来てそつと笑ってくれるのです。すると不思議とこっちまで笑顔になっていくのです。別に他の人でも出来るだろうと思いませんか。でも今のままでは無理な人がほとんどだと思います。人は、人一倍努力、大きな気持ちを

持つて生きようとすればたいの事は出来るのではないのでしょうか。障害、病気を抱ってしまった子どもや大人は、人一倍という事をしてやっど普通の人に追いつけるか、追いつけないかです。ところが、ぼくたち普通の人はこれといった努力をしません。それは、普通の人と不自由な人との違いにあります。普通の人は、だいたいがそなわっていて、出来ない事は、ほとんどといていいほどないのです。生まれてきてあたり前に目が見えて、耳が聴こえて、声も出る。そして自然と歩いて、あたり前のようにいろんな事を理解できるようになる。

反対に不自由な人は、どこかが全く出来なかったり、全体的に出来なかつたりと、人一倍の努力や気持ち、苦勞がないとだめです。

このことから、普通の人は、ほとんどが出来るところといて努力をしないでなまけていることが分かります。でも本当は、不自由な人たちのように人一倍の自分に足りない何かをすれば、いろんな事が出来ます。「ホームランを打ちたい。」出来ます。

「世界一の何かを作りたい。」出来ます。

「医者になりたい。」出来ます。

普通の人は、どうでもいいと思っているどこかの小さい所がぬけていてそれが本当は、自分のために必要な大きな所だったりしたら大変です。今まで造ってきた階段がくずれてしまします。でもそういう時もあります。だから、また新しい段を自分で頑張つて積んでいき、終わりのない階段のように限界を造らず、人一倍、また一倍と力をつけていきたいです。

ぼくが医者になるために何をすればよいのでしょうか。たくさん勉強する事も必要。

人の気持ちに気づき、寄りそえる様になる事も必要。自分自身の弱い気持ちに打ち勝つ強い気持ちも必要。

まだまだ足りない所ばかり。でも弟が自分の可能性を最大限に使い、生きていく所を見習い、ぼくも、自分の可能性を信じ日々努力して生き

ていこうと思います。

そして、医者になったら、体が不自由な人のために、不自由な所を治したり、保護するための道具を造ってみんなを笑顔にしたいです。その事を考えるとワクワクする時もあれば、自分には出来るのかと悩む時もあります。でもぼくは一人じゃなく、家族がいて、周りの友達がいてたくさんの人に支えられて生きています。

ぼくは、夢への第一歩として、弟のようにつらくても周りを笑顔にさせて喜ばせられるような自分になりたいです。

毎日楽しく、むだにしない生き方、日々チャレンジする心を忘れず夢に向かって頑張り続けていきたいです。

